

みんぱくワールドシネマ

映像から考える〈人類の未来〉



少女は自転車にのって

© 2012, Razor Film Produktion GmbH, High Look Group, Rotana Studios All Rights Reserved.

第41回上映会

2018年6月9日[土] 13:30~16:00(開場13:00)

場所 国立民族学博物館 講堂 **要展示観覧券(一般 420円)**

定員 450名 入場整理券を11:00から本館2階講堂前にて配布します。事前申込は不要です。

主催 国立民族学博物館

Wadjda

2012年/サウジアラビア・ドイツ/97分/アラビア語/日本語字幕付き

監督・脚本/ハイファ・アル=マンスール

主演/ワアドムハンマド アブドゥルラフマン・アル=ゴハニ

司会 鈴木 紀 (国立民族学博物館 人類文明誌研究部・准教授)

解説 菅瀬晶子 (国立民族学博物館 超域フィールド科学研究部・准教授)

お問い合わせ 国立民族学博物館 企画課博物館事業係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL.06-6878-8210 (土日祝を除く9:00~17:00) <http://www.minpaku.ac.jp/>



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

みんなくワールドシネマ

映像から考える〈人類の未来〉

国立民族学博物館では2009年度から、研究者による解説付きの上映会「みんなくワールドシネマ」を実施しています。10年目の今期は昨年に引き続き、〈人類の未来〉をキーワードに映画上映を展開していきます。今回はサウジアラビア=ドイツ合作の「少女は自転車にのって」を上映します。明朗活発な10歳の少女ワジダの日常生活や願いをとおして、サウジアラビアにおける女性の状況について知りたいと思います。

第41回上映会

2018年6月9日(土) 13:30~16:00 (開場13:00)

場所 国立民族学博物館 講堂 **要展示観覧券(一般 420円)**

定員 450名 入場整理券を11:00から本館2階 講堂前にて配布します。事前申込は不要です。

主催 国立民族学博物館

少女は自転車にのって Wadja

2012年/サウジアラビア=ドイツ/97分/アラビア語/日本語字幕付き

監督・脚本/ハイファ・アル=マンスール

主演/ワアドム・ハンマド アブドゥルラフマン・アル=ゴハニ

司会 鈴木 紀 (国立民族学博物館 人類文明誌研究部・准教授)

解説 菅瀬晶子 (国立民族学博物館 超域フィールド科学研究部・准教授)

映画解説

昨年、自動車の運転を女性にも認める国王令が出され話題を呼ぶなど、女性への抑圧が強いサウジアラビアを舞台に、自分の自転車で颯爽と走ることを夢見る少女の成長を見守る人間ドラマ。ラジオから流れる音楽を愛し、おしゃれにも敏感な10歳のワジダは、仲良しの少年の何気ない一言に奮起し、乗れもしない自転車を買おうと思い立つ。緑色のお気に入りを手に入れるべく、手製のミンガを売ったり、上級生の逢引きを手助けしたりと小銭を稼ぐが、目標額800リヤルに遠く及ばない中、学校で賞金1000リヤルのコーラン暗唱コンテストが開催されることに。自身の私生活は棚に上げ、生徒を厳しく縛る校長や、男児を産めず、第二夫人候補の気配に苦悩する母ら大人の事情を垣間見ながら、ワジダは苦手なコーランの猛勉強に励む。長篇劇映画デビューを飾る女性監督ハイファ・アル=マンスールは、学校でも家庭でもままならない現実にささやかな抵抗を試みる少女のたくましさ、窮屈な日常を強いられてきた同胞女性の未来を託す。全篇サウジアラビア国内で撮影された画期的な本作は、ヴェネツィア国際映画祭ほか数々の映画賞で評価された。(映画評論家 服部香穂里)

自転車にのって、少女はどこへゆく?

サウジアラビア制作の初の長編映画、しかも監督は女性。はじめて尽くしの画期的な作品であるが、そのメッセージは普遍的である。人はすべて平等である。社会的弱者におとしめられてきた女性やマイノリティも、望みのままに生きる権利があるのだと、シンプルな物語にのせて雄弁に訴えてくる。

女性が一人で外出することすら難しいこの国では、10歳の少女が自転車に乗り、男の子と競争など、非常識きまわない。しかし、母親や天敵の校長先生にいくら叱責されても、ワジダは諦めない。そんな彼女に、周囲の人びとも揺り動かされてゆく。母親は自分から心が離れた夫から自立したいと願い、ワジダをからかっていた近所の少年も、彼女に自転車の乗り方を教え、心の支えになろうとする。自転車を売る雑貨屋の主人も、実はワジダを応援している。彼女の望みに無関心なのが、家父長制の象徴である父親と、ことあるごとに権力をふりかざす校長という点が象徴的だ。

女性の自由意思が制限されてきたサウジアラビアだが、近年急速に状況が変わりつつある。2012年に制作された本作は、まさにその前触れを告げるものとなった。ヒジャーブがずれてあらわになった髪をなびかせ、パンク精神の象徴コンパースを履いてペダルをこぎ、表通りを疾走する。そんな夢を抱いた幾人ものワジダたちが、今後サウジアラビアを変えてゆくのではないだろうか。(菅瀬晶子)

映像から考える〈人類の未来〉

国立民族学博物館・准教授 鈴木 紀

国立民族学博物館では2016年度より特別研究「現代文明と人類の未来—環境・文化・人間」を開始しました。これは、現代文明の諸課題に対して解決志向型のアプローチをとる研究です。現代文明は物質的な豊かさや普遍的な価値観を広げましたが、同時に環境破壊や文化摩擦を生み出しています。民族学や文化人類学の立場からは、現代文明の矛盾はどのように現れるのか、そしてその解決策は何かを、地域社会や民族文化に視点を据えて考えることが重要です。みんなくワールドシネマのねらいは、この特別研究の問題意識を来館者の皆様と共有することにあります。世界の映画をとおして、現代文明を問い直し、多元的な価値が共存する人類の未来を展望したいと思います。



© 2012, Razor Film Produktion GmbH, High Look Group, Rotana Studios All Rights Reserved.

次回作品 2018年9月24日(月・振休)

僕たちの家へ帰ろう River Road

2014年/中国/103分/チュルク語・北京語/日本語字幕付き
監督・脚本/リールイジュン
出演/タンロン グオ・ソントウ バイ・ウエンシ



(C)2014 LAUREL FILMS COMPANY LIMITED

国立民族学博物館 National Museum of Ethnology

●開館時間…………… 10:00~17:00 (入館は16:30まで) ●休館日…………… 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)

●観覧料…………… 一般 420円/高校・大学生 250円/中学生以下 無料
※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

交通のご案内

●大阪モノレール… 「万博記念公園駅」、「公園東口駅」徒歩約15分

●バス…………… 阪急茨木市駅・JR茨木駅から「万博記念公園駅(エキスポシティ前)」
「日本庭園前」下車徒歩約13分

●乗用車…………… 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分
※「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

※高校・大学生・一般の方は自然文化園(中央口、西口、北口)窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。 ※小・中学生が自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園(中央口、西口、北口)有人窓口で、みんなくへ行くことをお申し出いただき、無料通行券をお受け取りください。 ※東口からは、自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。 ※東口または日本庭園前駐車場から来館し、自然文化園(有料区域)を通行してお帰りの場合は、同園入園料が必要です。

[大阪・万博記念公園]
〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
企画課 博物館事業係
Tel:06-6878-8210 Fax:06-6878-8242
www.minpaku.ac.jp/

